

山の百名花

講師 高下 裕史

【11】トウヤクリンドウ(大キレット)

どの花も気持ちを和ませてくれますが、見つけるとアドレナリンが湧くのがこのトウヤクリンドウです。

山歩きを始めたばかりの頃、雄山への稜線上で先輩から、「希少な花だよ」と教えられ、その黄金色が脳に焼きつきました。

高地の砂礫体に多く見られ、8月中旬から9月上旬が最盛期のようなです。今年の夏も八ヶ岳で出会いましたが、時期が早かったのか、花卉の色が緑かかって「黄金色」のイメージに遠く、また、希少の筈が群生していてちよっぴり不満でした。

同じトウヤクリンドウでも、大雪山に分布する青みが濃い品種をクモイリンドウと呼んで区別しているようですが、これに近い色合いです。

8月下旬に大キレットの縦走中、再び対面の機会に恵まれました。2〜3株ずつ、ひっそりと「点生」しているのがこの花らしく、色もまさに黄金色、思わず胸がキュン?で、アドレナリンが湧きあがるのを覚

えました。以後の足取りが軽くなったのは申すまでもありません。

地味な存在ですが、私のナンバーワンは、やっぱりトウヤクリンドウ。30年来変わらない心の花です。



【12】ゲンチアナ・ベルナ(ツェルマツト)

アルプスで私を最も感動させる花、それがリンドウの仲間、ゲンチアナ・ベルナです。エーデルワイスを求めて、初めてスイスアルプスを歩いたとき、むしろこの花の方に強く魅かれ、忘れられない花になりました。しかし、考えてみたら、この原稿を書くまで名前を知らずにいたのです。

「名も知らず、忘れえぬ人」ならロマン

ティックな話ですが・・・。

アルプスの三大名花といえ、エーデルワイス、アルペンローザ、ゲンチアナ・エンチアン(ベルナと同じリンドウの仲間)ですが、私のお気に入りにはベルナ。

シャープな星形で、鮮やかなブルー。その濃青色がウソでなく光っているんです。白の花心がまた絶妙なワンポイントで、この花の気品を高めています。

「魂が吸い込まれるような・・・」と表現した人がいますが、まさにそんな感覚です。

この夏は、モンテローザ小屋上部で岩稜登攀中に会いました。黄や赤のアルプスの花々の中に青色を輝かせるベルナを見つけて大いに元気づけられたものです。

数日後、遠足倶楽部の皆さんと、ヘルンリヒュッテハイキングにご一緒した際も、時折り、このお気に入り眼の前に現れて私を満足させてくれました。

神々しいまでのマッターホルン、周囲に連なる岩との雪の峰々、その間を走る無数の氷河、そんな圧倒的な景観の中、足もとでは可憐な花々がそれぞれの存在感で色どりを添えていました。